平成 25 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	25K06	氏　名	西田　太郎
研究主題 ―副主題―	論理的思考力に着目した文学的な文章の指導		
所属校	世田谷区立砧南小学校	派遣先	玉川大学教職大学院

項　目	内　容
Ⅰ　研究の目的	本研究は、論理的思考力に着目した文学的な文章の指導について考察したものである。知識基盤社会においては、目的に応じて知識を集め、選択し、活用することが求められる。各種調査の結果や考察からは、思考力について言及するものが多く、「思考力・判断力・表現力」という相関関係においても、思考力が重要な役割を果たすと考える。また、現在求められている思考力は、「結び付ける」「関係付ける」など、論理がもたらす効果を期待したものであると考えられることから、特に論理的思考に焦点化した研究を行う。 論理的思考力の育成においては一様に国語科の果たす役割が注目されている。そして、現在の研究実践の傾向から、論理的思考を伴う言語活動を充実させること、説明的な文章のもつ論理性を生かすことが、国語科において論理的思考力を育成するための主な方策として挙げられていることが分かる。 しかしながら、論理的思考力を育むための言語活動は、国語で培った力を基盤にするとも言えるが、他教科でも行われる学習活動である。全教科を通して論理的思考力を育成するという側面とともに、教科・領域の特性を生かした指導によって論理的思考力を育成するという側面が必要であると考える。 また、論理的な文章を読むことで論理的思考力が得られるのではない。児童自らが読み取ったことに対して論理をもたせていくこと、あるいは論理的に読んでいくことが必要である。重要なことは、文章の論理性ではなく、読みにおける思考力の働きである。 このような考えに立てば、論理的思考力の育成という視点から文学的な文章及び文学的な文章の指導を考察することは、必要な研究であるといえる。論理的思考力の育成が求められている状況において、文学的な文章の指導に関してはこれに対する十分な研究がなされていない。本研究は、文学的な文章を読む際に働く論理的思考力を明らかにし、論理的思考力の働きを生かした文学的な文章の指導の考え方を提案するものである。
Ⅱ　研究の方法	本研究では、まず文学的な文章を読む際に働く論理的思考力を明らかにするために、主に次のような先行研究についての分析・考察を行う。 ・平成 20 年学習指導要領に関するもの ・「論理」「論理的思考」等に関するもの ・国語科における学力観に関するもの ・文学的な文章の指導に関するもの 次に、論理的思考力の働きに着目した文学的な文章の指導を示すために、読みの観点を基にした文学的な文章の指導に関する先行実践の分析・考察を行う。その上で、論理的思考力の働きを生かした学習指導展開のモデルを作成する。

Ⅲ　研究の結果	(１)文学的な文章を読む際に働く論理的思考力 平成 20 年度版学習指導要領の文学的な文章の指導に関する指導事項は、は二種類の論理的思考に分けられる。A「基づいて」「即して」という、叙述を根拠にした思考、B「関係付け」、「関連的に」という一貫性を推し量る思考である。言い換えれば、Aは自分の解釈を述べるための「論証の論理」、Bは文章を読むための「文脈における筋道の論理」である。 A「論証の論理」は、読み取ったことがある前提の論理的思考である。読み取りに作用する論理こそ、B「文脈における筋道の論理」である。本研究が着目する文学的な文章を読む際に働く論理的思考は、B「文脈における『論理』」を意味付ける思考である。これは、文学的な文章を読む際に働く特有の思考である。学習者が自ら文章に対して意味付けを行うという能動的な思考であり、文学的な文章を読むことに内在している思考である。その思考を支える論理的思考力の中核を、叙述の「関連」をつかみ、読み手の立場で「意味付け」、その適切さを追究する「能力」であると考え、関連付ける力とした。 (２)関連付ける力を生かした文学的な文章の指導 文学的な文章を読み、一語や一文によって解釈が形成されることはあり得ない。一語や一文が解釈において意味をもつには、背景としてその他の複数の語や文が根拠として挙げられるような一貫性、いわゆる文脈が必要である。本研究では、読み手のもつ一貫性をもった表象を文脈と位置付けている。そして、文脈をもつためには、叙述の関係や関連から一貫性を導く思考が自然である。 関連付ける力の働きを生かした文学的な文章の指導として、文章において読み手が了解すべき内容を「設定」とし、読み手が関連性を基に意味付ける内容を「変化」と位置付けた。そして、「設定」「変化」を基に、指導事項の系統性を踏まえた従来の読みの観点を再編成した。これにより、関連付ける対象が焦点化し、叙述の関連を意識して意味付ける読み取りが可能になる。 指導展開としては、二つのモデルを示す。①「設定」を読み取ることで、意味付ける部分である「変化」の明確化を図るモデル、②叙述の関連を意識して「変化」を読み取ることを意図したモデルである。
Ⅳ　考察	関連付ける力に着目した文学的な文章の指導において重要なことは、関連付ける力という論理的思考力が、文学的な文章の読解過程に即しているということである。これは、関連付ける思考が、読みの力を高めるための思考であることを示している。関連付ける力に着目した本研究は、論理的思考力の育成に成果をもたらすだけでなく、文学的な文章の指導においても有効である。